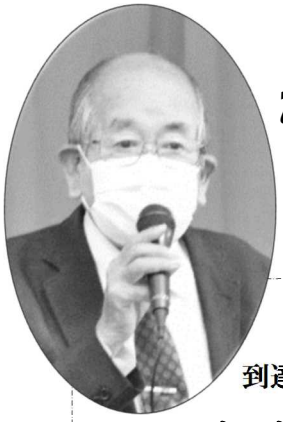
社会福祉法人 清水あすなろ福祉会
法人だより
福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家
No.27 2022年4月20日（令和４年）
静岡市清水区山原871-2
Tel 054-363-2046
Fax 054-363-0522



2022年は 高齢者人口のピーク期に踏み込む年
社会保障給付の抑制と、国民の一層の負担増が本格化？

理事長　杉井則夫

２０２５年問題は、いわゆる団塊の世代８００万人全員が７５才（後期高齢者）に到達する年のことです。２０２２年はその団塊の世代の第一陣が７５才に達する年で、いよいよ後期高齢者人口のピーク期に踏み込む年になったわけです。

高齢者の増加に伴い、医療、介護などの社会保障費は増えるわけで、今後の社会保障給付の抑制と、利用者・保険加入者の一層の負担増などが本格化してくるものと予想されます。

今年度に限ってみれば、介護保険料は全国平均では0.16％引き下げになっていますが、静岡県は11.36％→11.39％へとわずかではありますが引き上げとなっています。

厚生年金は0.4％の引き下げになる一方、高齢者医療費本人負担が所得制限付きではありますが１割から２割負担に引き上げられます。

福祉職員の処遇改善は被保険者の負担増で？

一方、介護や保育で働く職員の賃金が、全労働者の平均賃金より月額で10万円近く低い問題では、2022年2月から9月までの期間限定で月額9000円の加算が決定し、10月以降は介護報酬で処遇改善を行うことが決定されております。この額で十分と言うことではありませんが、増額分の国費負担は1／4にとどまっているため、低所得の被保険者が一層の負担増になるという声も上がっています。

増大する社会保障費の確保は

増大する社会保障費をどう確保するかという事では、必ず財源問題が出ます。

法人税率や高額所得者への所得税率引き上げなどを消費税導入時点に戻す事によって、税収入を大幅に増やすことが可能だと思っています。

社会的弱者への公的支援をもっと充実を

同時に、社会的弱者への公的支援制度をもっと充実すべきです。

高齢の単身者が賃貸住宅に住みたくても貸し手がいなかったり、福祉介護サービスを受けたくても連帯保証人がいないなど、現在の福祉サービスの対象に入る以前の問題がいくつもあります。

子ども食堂で浮き彫りになった子供の貧困化は、取りも直さず親の貧困そのものに他ならないのです。

社会福祉法人としての私たちの立場で出来ることは限られていますが、我々は断じて営利に走らないという覚悟と、福祉情報の発信とを一層心がけてゆきたいと考えています。

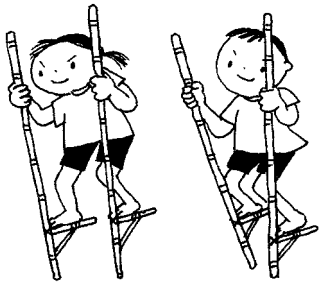
風の子保育園

今年も「保護者と共に」を大切に

～子どもたちの可能性を信じ、これからの成長を楽しみに～

コロナ禍でも「できることは何か？」を実践してきて～

昨年度は、コロナ禍でも「できることは何か？」「どうだったらできるか？」を考え、行事の見直しや新たなやり方を考えるなど、試行錯誤する中で実践してきました。



保育参加や個別面談、夏まつりごっこ、運動会・・・、行事の取り組みを通して、保護者の方には、園での子どもの姿や他児の姿を見て、家庭と同じ姿に安心し、家庭では見られない子どもの姿に成長を感じていただくことができたように思います。

また、個別面談の中で子どもの姿から保護者と職員と一緒に、ひとり一人の子どもの育ちを確かめてきました。

今年度も、昨年度の評価反省をもとに『保護者と共に』を大切に、子どもの姿や日常の保育を、より丁寧に伝えていくことを意識していきたいと思います。

新たな取り組みにむけて、親子遠足・祖父母の集い

新たな取り組みでは、ここ２年間、４歳児５歳児の親子遠足と祖父母の集いが中止となりました。親子遠足では、保育園周辺の子どもたちがよく散歩に行っている場所で、親子であそび、保護者同士の親睦ができるような計画をしています。

祖父母のつどいでは、５歳児の祖父母の方を対象に、運動会後に行ないたいと考えています。日頃、送迎にもご協力していただいている、おばあちゃん、おじいちゃんに子どもたちの成長した姿を見ていただきたいと思います。

行事は、子どもの育ちの確かめ

2021 年度の卒園式での卒園児の合唱

３月２８日　第４３回風の子保育園卒園式が行われました。みかん組２４名が卒園しました。

私たちは、５歳児で３つの行事を通して、子どもの育ちの確かめをしています。

１つ目は合宿保育での『生活面の自立』。

２つ目は運動会での『運動面での確かめ』。

３つ目は卒園式での自分の思いを伝えたり、劇のセリフを言ったり『言葉で表現すること』です。

これは、風の子保育園の保育理念です。

保育理念：『一人ひとりの育ちを大切にしよう』

保育理念『一人ひとりの育ちを大切にしよう』の子どもの育ちとは、『体・心・言葉・感性』です。乳幼児期は４つの育ちのバランスが大切だと考えて、一人ひとりと関わっています。

卒園児の姿から、保育園で積み重ねてきたことを土台に、子どもたちの可能性を信じ、これからの成長を楽しみにしています。

あすなろの家

「繋ぐ」をキーワードに　～明るい未来へ「繋ぐ」1年に！

昨年度は「動く」をキーワードに

令和３年度もコロナ禍により、活動を制限されることが多い年でした。そんな中で、「動く」をキーワードに、重点課題「本物ケア・接遇力・繋がり・私たちが」について工夫して取り組んできました。

「本物のケア」では、介護技術の全体講義に加えて、個別の実技指導を予約制にして「うまくできない、自信がない」の解消に繋げました。「本物の接遇力」では、特養職員へのインタビューで、「イライラしてしまう場面、その時どのように対処しているか」など聞き取り、対応の見直しと意見交換する機会を設けました。また「笑顔大集合」と題した看板を製作し、楽しみながら接遇面を意識する取組みを行いました。

「集まらないウォークラリー」で笑顔と元気を

「本物の繋がり」では、納涼祭や参観会が開催できない中、「集まらないウォークラリー」を夏と冬２回実施しました。参加者からは、「久しぶりに楽しかった」「ありがとう」と声をかけていただき、笑顔と元気をたくさん作り出すことが、職員も久しぶりに充実感、達成感、ワクワク感を感じることができました。

コロナ禍で、当たり前が当たり前でなくなった暮らし

コロナ禍では、人と人とが離れるように、仕切りを作るように、大きな声も出せない、マスクの中でしか笑えない、離れたところで暮らす大切な人に会えない・・・。社会常識や生活様式の変化が起こり、今まで当たり前だったことが当たり前でなくなった私たちの暮らし。

また、大きな社会問題となっている福祉業界の人材不足、あすなろの家にも例外なくこの波が押し寄せているのが現状です。

今年、もっと多くの人、お店、会社、団体との繋がりを

そんな中、昨年「集まらないウォークラリー」を実施して気づいたことは、あすなろの家が繋がってきた地域は、あすなろの家に理解を示してくださっている方々がほとんどでした。

令和４年度、もっと多くの人、お店、会社、団体との繋がりを作り出していかなければならない、と強く感じています。

明るい未来へ「繋ぐ」１年に
～人と人、人と社会、新たな地域と・・・

令和４年度のあすなろの家のキーワードは「繋ぐ」。

「人と人と繋ぐこと」「人と社会を繋ぐこと」「福祉業界と新しい人材を繋ぐこと」「あすなろと新しい仲間を繋ぐこと」「あすなろの家と新たな地域を繋ぐこと」・・・この「繋ぐ」ことをテーマに、重点課題「本物のケア・接遇力・繋がり」の中で何ができるのか、とても楽しみな１年になると思っています。

そして、明るい未来へ「繋ぐ」ための１年にしていきます！

「認知症カフェ・すまいる」

認知症の方の居場所として、またそのご家族の負担軽減を主な目的とした認知症カフェを来期も継続して行います。

毎月最終火曜日の午後、当事者のみならずどなたでも参加ＯＫ！毎回楽しくやってますので、気軽に遊びに来てくださいね。

お待ちしていまーす！！

ともの家 2022年度は 設立から34年 ～設立の「理念」を指針に～

「障害者総合支援法」は、ノーマライゼーションの理念に基づき１５年前に制定されました。

※「ノーマライゼーションの理念」：障害のある人が基本的人権のある個人としてふさわしい日常生活や社会生活を営み、だれもが住み慣れた地域での生活を実現すること

しかし、仲間たちが社会で生きるための所得保障や、家族依存からの脱却には変化が見られず、親亡き後の心配は尽きません。

「サービス」は増えても、障害のある仲間の意思は端っこに！

営利企業の参入を認めたことで、障害のある人が利用できるサービス資源は格段と増えましたが、障害の重さで使えるサービスが決められ、障害のある仲間の意思は端っこに追いやられている感が否めません。

ともは、設立から３４年、もがきながらも立ち止まることなく、歩みを～

「ともの家」は設立から 34 年目を迎えました。この間、設立時の理念を指針として、事業を進めてきました。職員の給与保障さえ儘ならない現実と、理念の追求との狭間で、もがきながらも立ち止まることなく、歩みを進めてきたつもりです。

障害があっても、主体的に生きることで、望む生活を描ける支援に力を

２０２２年度も理念を柱に、時代と共に変化している法律と制度、地域の現状を知り、アクションを起こす事。そして、障害のある仲間たちが主体的に生きることで、望む生活を描けるような支援に力を注ぎたいと思っています。

映画会「だって しょうがないじゃない」を開催 160名が鑑賞

発達障害を抱えながら独居生活を送る叔父の日常を
発達障害と診断された映画監督が撮り続けた5年間
○。

私たちは、障害あるゆえの『しょうがないじゃん』に抵抗したい」

3 月 11 日･12 日の 2 日間、はーとぴあ清水をお借りして、第 3 回目の映画会を開催しました。今年は「だってしょうがないじゃない」というドキュメンタリー映画を、160 名のみなさまに鑑賞して頂きました。

人は生きていれば「しょうがない」とあきらめざるを得ない場面が多々あります。主人公のまことさんは、障害あるゆえの物事への執着や、自分ではどうしようもない決めごとをたくさん持ちながら、親亡き後、親と暮らした家で一人暮らしをしています。そのため、周囲からの苦情や病気のことなど、一人では乗り越えられない問題に直面します。

「障害があるのだからしょうがないよ」と言う親戚たち。「そうだよね。しょうがないよね」と諦めるまことさん。世間的にはどっちも当たり前の姿なのかもしれません。

しかし、私たちは障害あるゆえの「しょうがないじゃん」に抵抗したいのです。映画を通して、この抵抗を理解してくれる方が増えることを願っています。